

主文

被告人を懲役１０月に処する。  
未決勾留日数中３０日をその刑に算入する。

理由

（罪となるべき事実）

被告人は、常習として、平成１３年９月２日午前７時１６分ころから同日午前７時１９分ころまでの間に、東京都足立区 a 丁目 b 番 c 号所在の A 旅客鉄道株式会社 B 駅から同区 c 町 d 番 e 号所在の A 社 C 駅に至るまでの間を進行中の電車内において、D（当時２８歳）に対し、右手で D の着衣の上から陰部付近を撫で、もって、公共の乗物において、人を著しくしゅう恥させ、かつ、人に不安を覚えさせるような卑わいな行為をしたものである。

（量刑の理由）

被告人には、同種犯行による４回の罰金前科、５回の懲役前科があること、本件犯行は、前刑出所後、仕事で電車に乗らなくてもよいようにと茨城県内の養鶏場に住み込みで働いていた被告人が、平成１３年９月１日仕事が辛く無断で同所を飛び出した翌日に敢行したものであること等の事情に照らすと、被告人には、この種犯罪についての誠に根深い犯罪性向が認められるといわざるを得ない。また、公衆に著しく迷惑をかける暴力的不良行為等の防止に関する条例（東京都条例）の改正により、いわゆるちかん行為に対する処罰が加重され、平成１３年９月１日から施行されたものであるところ、婦人警官である D の処罰感情にも極めて厳しいものがある。

そうすると、被告人の刑事責任は相応に重いというべきであり、被告人が本件犯行を反省悔悟していること等、被告人に対して斟酌すべき事情も考慮した上、主文の刑を量定することとした。

よって、主文のとおり判決する。

（求刑 懲役１年）

平成１３年１０月２６日

東京地方裁判所刑事第２部

裁判官 植村 稔